

学校薬剤師による 教職員を対象とした エビデンス講習の有用性

大橋綾子¹、平賀秀明²、秋本義雄²
¹株・健栄 みずき薬局成田店、
²東邦大学薬学部

【目的】

千葉県佐倉市では小中学校の教職員に対してエピペンの講習会を学校薬剤師が行うようになって今年で3年目になる。

この講習会は、医療職ではない教職員が、児童、生徒がアナフィラキシーを起こしたときに、発現した状態を判断し、エピペンの使用が出来ることを目的とし行っている。

今回、講習終了後のアンケート調査から、講習内容の理解度、次回講習会への要望について解析した。

【方法】

参加教職員数各36名（新任～教師歴30年以上） 講演30分、その後手技の練習30分（＋質疑応答含）。

講習会後に、アナフィラキシーとは、通常のアレルギーとの違い、エピペンの使い方、実際に使えると思うかについて、1～5段階の理解度評価及び感想・要望などの記述式のアンケート調査を実施した。

実施年月日平成25年7月,26年7月,27年4月

アンケートの内容

教師歴(5年未満、5～10年、以下10年刻み)、専門分野
講演評価項目(1～5、点数の多いほど高評価)

アナフィラキシーという状態がわかったか

アナフィラキシーとアレルギーの違いが分かったか

エピペンの使い方は理解できたか

アナフィラキシーが起きたときにエピペンは使えるか

自由記述項目

分かったこと、知識が深まったこと

分わかりにくかったことかったこと

講習を受けて気づいたこと

今後の研修で聞いてみたいこと

【結果】

(講演の理解度)

アンケートの回収率は100%であったものの、記述の内容から最高評価を1とした受講者がいたため()内に補正した値を示す。

全項目の理解度平均値は3.69(4.57)と高い値を示した。最も高い理解度平均値を示した項目は「エピペンの使い方の理解」の3.89(4.89)であり、最も低かった項目は「実際に使えるか」の3.47(4.36)であった。()内は補正值

また、各項目とも教師歴と理解度とには相関性が無いことが示された。

講演の内容理解度の評価

	評価点	補正評価点
アナフィラキシーという状態がわかったか	3.72	4.56
アナフィラキシーとアレルギーの違いが分かったか	3.69	4.72
エピペンの使い方は理解できたか	3.89	4.89
アナフィラキシーが起きたときにエピペンは使えるか	3.47	4.36
平均値	3.69	4.57

エピペンDI



- アナフィラキシー補助治療剤
- 有効成分 アドレナリン
- 規格 0.15mg／15～30kg未満
- 0.3mg／30kg以上
- 効果持続時間 15分～20分
- 注射針 22G 13mm／15mm

アレルギーによる皮膚症状と アナフィラキシーへの移行可能性



アレルギーの時使う薬

子供達が持参する可能性のある薬

抗ヒスタミン剤



抗アレルギー剤



ステロイド

(抗ヒスタミン剤＋ステロイド)



吸入薬(喘息)

レスキュー



コントローラー＋レスキュー



講習会での実習風景



自由記述の内容

分かったこと、知識が深まったこと

実際の写真を見ることにより理解が深まった

複数回受講したことにより、理解が深まった

アレルギーとアナフィラキシーの違い

アナフィラキシーが起きたときの連携（役割分担）

エピペンの理解が深まった

それ自体、針、保存方法、トレーナーを使って
の手技

エピペンを使用しても大丈夫＆使用タイミング

必要がなかったとしても有害事象はおきないこ
と（健康な体には害がない）

判断に迷ったら使用した方がよい（子供には大
丈夫と聞かず大人の判断で）

分かりにくかったこと

実際の場面の皮膚症状からの判断基準

病状の見分け方

他の子のエピペンを使用して良いか

薬の種類は頭に入りにくい

薬の用語

コントローラー、レスキュー、ヒスタミンなど

講習会を受けて気づいたこと

「命を守るのは先生」心に響きました
実物を見ることができてよかった
複数回の研修で理解が深まった
エピペンを使うことは正直怖い。でも万が一の
時は使う
エピペンを使用するための研修が必要
役割分担をして有事の訓練をしたが、実際の場
で対応できるか不安

今後の研修で聞いてみたいこと

食物アレルギーの事例と日々の対応

他のアレルギーについて

喘息発作時の対応

蜂アナフィラキシーの詳細と対応

軽いアレルギー症状への対応

今までアレルギーを起こしたことの無い

薬を持ってきていない

アレルギーの時に使う薬の成分や使用方法

季節による教室の環境と生徒への影響

【考察】

講演内容の理解度が高い理解度評価が得られたのは、資料に皮膚症状や使用薬剤の写真、実際の針の太さなど視覚的に説明する工夫をしたためと考える。

しかし、専門用語が難しいとの意見があったことから、さらに平易な言葉による表現への工夫が必要であることが示された。

一方、最も重要な講習目標である「実際に使えるか」が内容の理解度の項目より低い値となったのは、知識の修得以外に使用に伴う個人としての熟達度や責任・体制に対する不安を反映しているためと思われる。

【今後の課題】

教員の使用に対する個人の持つ不安を解消するためには講演等による教職員の知識・意識向上とともに、「実際に使える」ための使用方法の習熟に向けた複数回の実技の練習とその維持が必要であると考えます。

そのためには、教職員に学校ごとに作られたマニュアルを熟知し、実施してもらう必要がある。

また、学区域内の教員間での格差を解消するため、内容の統一と定期的な講習・訓練による一定水準の知識・技術とそれの維持が必要であると考えます。